

令和元年度第1回 旭川市総合戦略検討懇談会 議事録

日時 令和元年8月27日(火) 午後3時00分から午後5時10分まで

場所 旭川市民文化会館 第3会議室

出席者

参加者

(50音順)

荒山 恭一氏 , 石井 吉春氏 , 伊藤 義夫氏 , 川村 祐子氏,

斉藤 素子氏 , 坂本 尚志氏 , 関山 真教氏 , 能登 裕一氏,

松倉 敏郎氏 , 三浦 顕治氏 , 水上 崇氏

オブザーバー

国土交通省北海道開発局旭川開発建設部地域振興対策室長 岩渕 仁志氏

農林水産省北海道農政事務所旭川地域拠点 総括農政推進官 渡辺 純一氏 (代理出席)

経済産業省北海道経済産業局地域経済部健康・サービス産業課参事官 直江 健二氏

北海道上川総合振興局地域創生部長 加茂 秀治氏

事務局

総合政策部長 佐藤 幸輝

総合政策部次長 坂本 考生

政策調整課主幹 北嶋 一雅

政策調整課主査 狩野 大助

政策調整課 小松 知広

政策調整課 太田 一弘

会議の公開・非公開

公開

傍聴者の数 0名

会議資料

- 資料1 旭川市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成27～31年度版）評価検証結果報告書（案）
- 資料2 第2期 旭川市まち・ひと・しごと創生総合戦略基本方針（案）
- 資料3 第2期 旭川市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定に係るスケジュール（案）

会議次第

1 開 会

2 議 題

- (1) 第1期 旭川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価検証について
- (2) 第2期 旭川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本方針について
- (3) その他（今後のスケジュールの確認など）

3 閉 会

1. 開会

2. 議題

(1) 第1期 旭川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価検証について

(事務局)

資料1【P1～12 前段・基本目標1】に基づいて説明

(進行役)

今の前段と基本目標の1について、質問・意見等ありましたらよろしくお願いします。

(A氏)

私は結婚相談所の関係で質問させていただきます。P10の(エ)今後の課題や方向性で、2行目の「民間との役割分担が課題であり」という文章の意味がわからない。具体的には何が課題なのでしょうか。

我々が結婚相談の取組をして感じることは、HPのページビュー数がH30年度実績:46,789名、HPを見て旭川信金の結婚相談所に参加申込みした方は1名だけで、HPの内容を見た人に参加したいと思わせるような内容の提示が必要ということです。

旭川信金の結婚相談所の会員は約男性100名、女性140名と女性が多い状況です。男性は平均年齢が高く、女性は平均年齢が低いという傾向にあります。取組を始めて今年

の11月に丸3年を迎えますが、今までの実績として結婚が10組、婚約が4組という状況です。まだまだ会員が増えても良いと思っており、市にはしっかりと組織化に向けた取組を進めて欲しい。

そんな中で民間との役割分担における課題というのを聞きたい。

(事務局)

市としては周辺自治体や民間の方に縁結びネットワークへ参加して欲しいという思いがあり、その中でSNSやHPでの発信に限らず広報を行うとともにそれぞれの機関で更に情報発信していただくことが課題だと考えています。

(B氏)

新聞社に勤めているため、過去記事を検索してみたのですが、去年の4月以降、結婚相談で記事になっているのが婚活セミナーの開催に関する記事のみでした。一方で、道内信金の取組が多く記事として挙がっています。例えば、苫小牧信金、帯広信金など、各信金の活動が積極的なのでアドバイスをもっともらってみてはいかがでしょうか。自治体で言えば清水町が「男子図鑑」という事業でクラウドファンディングを実施しており、結構な金額を集めています。ネットワークに参加してくださいという前に自治体が積極的な活動を行っている例も散見されました。

(事務局)

現在、プロモーターという役割を持つ人をネットワーク内に配置して近隣町や農協等に事業を拡げていく取組をしており、どのように情報発信をしていくかを担当部局と相談しながら進めていきたいと思えます。

(A氏)

一般的なイベントとしてお見合いを実施していますが、その後のフォローアップができていない。第2期総合戦略に当たっては表面的な結果だけではなくどのように効果に結びついたのかを知りたい。人口減少についても同じで数字の羅列ではなく、もう少し根拠を提示して欲しい。

(進行役)

他にはいかがでしょうか。

(C氏)

P11の(エ)今後の課題や方向性にある「ふるさとに愛着や誇りを持つための教育を推進していく必要がある」で、言葉は綺麗ですが具体的な教育は行っているのですか。

(事務局)

現在、市内の小中学生がアイヌや屯田兵など、地元の歴史を学ぶためにアイヌ記念館や兵村記念館と連携した研修の実施ですとか、社会科副読本を新たに小学3年生に配布するなど少しずつ充実させています。また、今年の8月に教育大綱を改訂しまして、学びを通じて地域への愛着を深める旨を記載していますので、教育機関とも連携を深めて進めていくところです。

産業分野について申し上げますと、経済部局で高校生がものづくりを体験できるインターンシップ事業を実施しており、地元の企業の良さや産業の魅力などを伝え、産業分野の担い手確保・人材育成につながればと考えています。

(進行役)

合計特殊出生率が上がっていますが、理由はどう考えているか教えてください。また、第1期総合戦略の期間中の男女別、年齢階層別の人口増減の推移を見ていると若年女性の転出が多く、男性の転出数を上回っています。このことがベースになって合計特殊出生率の数字が改善していると考えられるため、必ずしも良くなっている数値とは言えないと思います。男女の人口比が均衡していますが女性が多く転出することで数値は改善しており、問題が広がっているという事実に対する見解を教えてください。

また、合計特殊出生率が改善しているのが、若年女性の人口減少が顕著なためという関係要因も示していただかないと評価できないので次回以降はお願いします。

KPIは達成率や数値をみると概ね良い結果だが、基本目標が達成されていないということでKPIと基本目標の関係性が希薄であることは明らかですので、第2期総合戦略策定では再び検討しなければ枠組みがおかしくなってしまいます。第1期総合戦略は5年目になるので、KPIの設定が問題にならないように考えてください。

(事務局)

合計特殊出生率は上がっていても出生数は減っているというところで、母数の減少が大きいと思っておりますが、実際、出生全体に占める第2子目以降の割合は上昇傾向にあります。ただ、KPIと乖離しているところがありますので、設定は難しいのですが関係部局と相談します。

(進行役)

KPIの設定は難しいと分かっていますが、あまりに基本目標から離れてしまう場合には見直しを行う必要があると考えています。

(D氏)

令和元年ということで私の周りでは今年に入って多くの方が結婚しています。結婚・出産が増えている感じはします。今のところ旭川市全体で婚姻数や出産数はどうなっていますか。

(事務局)

今年度の数字は収集できていません。申し訳ありません。ただ、令和の始まった日は婚姻届の申請が多く、特別窓口を設けて対応をしたと聞いています。

(進行役)

このようなケースでは、一定期間内において結婚しようとする人が令和最初の日に集中しただけだと思うので、婚姻数が増加したとは言えないと思います。

やはり、若い世代の女性の流出が基本目標1を考えると大きな課題となります。

若い女性の流出は高等教育機関の影響が大きいと定説になっており、多くの自治体と同じ傾向にあります。旭川市はその傾向が強いと思います。総合戦略検討懇談会が始まった時から高等教育機関の問題はあって、市立大学の計画もあったが何も進んでいない。一丁目一番地に近いくらい高等教育機関の問題は大きいですが、5年間で前に進んでいない。検討していないとは思いますが、実施段階に移って欲しい。ダメならダメで他の対策を考えていくことも重要だと思います。人口減少問題が一番大きな課題であり、短期的に抑止力のある政策を実行に移せていない状況は問題だと思いますし、それに資する政策を優先的かつタイムリーに実施しなければいけない。そのような考えが抜けてしまうと問題だと思うので第2期総合戦略の検討時には考えてほしい。

(E氏)

先ほど、ふるさとに愛着をという話がありましたが、進行役の言われたとおり社会的な流出が多いのは若い世代で、総合戦略が始まったときから小中高生の中に愛着をもった人が多くいれば大学卒業後に戻ってきたり、旭川市内に残ったり、と現段階で何かしらの効果が出るはずだが全く効果が出ていない。また同じ内容では第1期総合戦略の繰り返しになってしまいます。ふるさとに愛着や誇りも持つといってもP4を見ると、進学を機に旭川を出て、大学を卒業後に旭川を出て、就職後も旭川を出ています。高等教育機関を卒業して就職した人たちの3人に1人は3年で仕事を変えており、旭川に戻っても再び出て行く人もいます。地元で生き活きと働いている人や魅力的な人が旭川にもいることを小中学生に伝える取組を行うべきだとずっと意見しています。今の教育は親にとって子育てがしやすくなるように目標を位置づけていますが、人口減が一番大きい問題と考えるのであれば、子どもの考え方を変えなければ難しい。小中学生が5年、10年後には、子どもを生む世代になり、その時に旭川で暮らしていきたいと思えるようにする必要があります。札幌に出て帰ってきて、数年したら旭川から出て行くという形

が社会的流出のパターンになっていると感じています。30歳前に流出している人が多いのは、地元で働けないということで、ただ大学へ行けばどうにかなる時代ではなくなっており、頑張っている人がいることを小さい頃から見せるのが取組の効果が出てくると思います。この中にあるような教育内容や指導方法とずれているかもしれませんが、アイヌの話や屯田兵の話を聞いてこの街で働こうと思う人は増えないと感じます。もっと、自営業者など生き生きと働いている人の姿や話を伝えることが大事で、それをふるさとに愛着や誇り感じる教育に入れ込んでいただければと思います。

(事務局)

今年度からコミュニティスクールが地域の諸課題に取り組む仕組みもありますので、地域の商店街や製造業の方も関わられるような形ができないか教育委員会と相談します。

(進行役)

ありがとうございます。時間の関係もごさいますので次に進ませていただきたいと思います。事務局の方で説明をお願いします。

(事務局)

資料1【P13～23 基本目標2】に基づいて説明

(進行役)

ありがとうございました。基本目標2に対して質問・意見等がありますでしょうか。

いないようなので私からいいでしょうか。基本目標が観光客入込客数で、KPIには観光客宿泊客延数を使っています。構造としては整理がシンプルにですが、入込客数は実態を表しておらず指標として安定性がない。宿泊客数が2割ほど増えて、入込客数が増えていないということは、日帰り客が減って宿泊客が増えているという説明になりますが実際にそうなのか疑問があります。KPIに何をを使うかは悩ましいが、基本目標は観光客宿泊客延数が良いと思います。旭川市は継続的に観光分野が良い方向に推移していると認識しているので、数値的にも結果が見えないと不自然に思いますし、伸びている分野を評価できないのが悩ましい。

(事務局)

総合戦略の中でも滞在型観光を推進に力を入れておりDMOも同様の考え方で活動しています。宿泊客の増加が顕著だと思いますので、KPIについては考えさせていただきます。

(進行役)

他の自治体で住宅政策が人口流出減につながるケースが見られています。旭川では前面に出していないですが、実施する可能性はありますか。他の要素で人口増減が説明されがちですが、住宅で増減する場合も多い。旭川で言えば、東川とか東神楽に出て行くケースで、旭川でも住宅を整備していけば市内に人が定着してくれると思います。大小様々な自治体が住宅整備の支援策に取り組んで、数字に一定の効果が現れています。総合戦略の中でそれが抜けていると感じました。人口流出が厳しい度合いなので色々なことを考えなければダメだろうと思いを申し上げました。

(C氏)

P 1 9 の 6 行目の企業誘致で、動物園通り産業団地への積極的な誘致活動の実施とありますが、今後の見通しを教えてください。

(事務局)

動物園通り産業団地ですが、建物はありませんが約25ヘクタールあるうちの4割強の分譲が決まっており、来年から建設工事が始まる予定です。残りの部分にどう企業誘致をしていくか、東京サテライトオフィスと協力しながら考えています。

(進行役)

実際には、新規雇用で言うと人手不足が旭川でも課題ですよ。

(事務局)

ですから、旭川市に来てでも労働力が確保できないという問題もあります。

(F氏)

各業界から言われるのが、新しい工業団地に新企業が誘致されることでパート等の労働力が新しい企業に移動してしまい人手が足りなくなるということです。

また、市内にいる企業が動物園通り工業団地に移るケースも多い。地元の企業も結構団地に出て行っています。

あと、動物園通りの通勤ラッシュがひどいので、新しい工業団地が運用開始になればさらに渋滞すると考えられ、それへの対処も必要だと思います。

(A氏)

時間給が高くなってきていて、時給2,000円とかで募集をしているところもあると聞いています。職種によっては深刻な人手不足で必要なところには手当を出しており、そのような環境になれば、定着はしない可能性もありますが人は流入してきます。ワークライフバランスなど若い人が何を求めているかを捉えて、従業員の希望に合った職場を

整備していけば流入が増えるのではないのでしょうか。また、企業体質を考えて質を上げることも大切です。

企業誘致にしても、魅力を伝えるのが重要で、以前、東京の人と話したら旭川市は地震が少ないことを知らなかった。PRを強化していくのであれば、BCPへの対応方法を考えてアピールしていくことで、本州で災害が起こった際に旭川市と提携したいという企業が出てくると思います。

(進行役)

産業構造の面で言うと、既存の企業には申し訳ないがトータルとして付加価値の高い事業所を増やして、それができない事業所は縮小してもらわないと安定した生活を保障できる雇用が生まれてこない。企業誘致もそういう雇用につながるのであれば意味があるし、全体の形をアップデートしなければいけない。

観光分野での雇用数は多いが、処遇面を考えると若い人が安定して生活できる業種にはなっていない。介護とか保育とか労働力が不足している業種をどういう風にしていくかが大きな課題であり、第2期総合戦略の策定に当たっても考えていかなければいけない。

(B氏)

東京のサテライトオフィスは企業誘致がメインだと思いますが、就業相談や就職相談の窓口も兼ねていますか。

(事務局)

UIJターンも含めて就業・就職相談を行っています。

(B氏)

スタッフは何名いますか。

(事務局)

3名で運営しています。

(進行役)

基本目標3、4の説明を事務局からお願いします。

(事務局)

資料1【P24～34 基本目標3、4】に基づいて説明

(進行役)

ありがとうございました。基本目標 3, 4 に対して質問・意見等あればお願いします。

(G氏)

広報誌のリニューアルで、QRコードで情報提供する内容が増えていますが、子育て世代には子どもを抱っこしながらQRコードを読み込むのが負担で広報誌から遠ざかり、見なくなったとの声を聞いています。

また、公民館の申請も使用したい公民館まで行って申請をしなければならない。仕事をしている方は開館時間内に申し込みに行くことが難しいので、本庁や支所、最寄りの他館などで申し込みができるようにならないでしょうか。

(事務局)

そのような不便な部分があるところを担当部局に伝えます。

(進行役)

他にいらっしゃいませんか。

(H氏)

KPIは、そもそもどのように決めているのでしょうか。

(事務局)

4年前に策定したときに各担当部局と話ながら達成目標に関する指標を定めております。

(進行役)

しかしながら、目標達成に関連性のあるKPIを設定しましたが、現実には効果を見せていないものもありますが、数字で結果を表さないと恣意的な評価につながるので総合戦略の目標、KPIは数字で示すようにしています。第1期総合戦略策定時に議論をして達成目標とKPIを決定しましたがうまく行っていない部分も出てきている状況です。

(H氏)

P20のスポーツのところではほかの項目は目標達成に向けて比較的良好に推移していますが、スポーツに係るKPIはかなり目標と乖離しています。そもそも戦略に必要なのでしょうか。自力では改善できないように感じますが。

(進行役)

自力で改善できるかは別として、このK P Iは旭川市の勢いが分かる指標であり、あらゆる要因が数字に表れる人口のように、自力でどうすることもできない指標を設定しなければならない場合もあります。

(事務局)

他にも適切だと思われるK P Iを設定したいと思っても数字が出せないこともあり、達成目標とK P Iが離れてしまう部分もあります。

(H氏)

もう一つ聞きたいのですが、不妊治療の助成金について、旭川市では40歳までに不妊治療を始めると43歳まで6回分の助成があり、40歳以降に始めると3回分までしか助成が出ないとなっていますが、出生率を考えればみんな6回になれば良いと思います。

(進行役)

高齢出産のリスクなどもあり、その考え方も影響しているのではないのでしょうか。

(事務局)

助成の回数については国の制度でして、国のエビデンスに基づいて回数を決定しており、旭川市では第2子を望む方には助成回数を独自に増やしています。

(A氏)

旭川空港は2020年に民間へ委託されますが、市はどこまで関わっていけるのですか。

(進行役)

具体的な計画に基づいて運営する方式なので、進行管理は市が行います。その意味で言えば市がコントロールできると考えています。

(A氏)

誘致活動は市が関わられますか。

(進行役)

行政と民間が協力するという事は変わらないので、何もしなくて良いわけではない。市は従前通りもしくはもっと関わっていかなければいけない。

(A氏)

主体性という表現が正しいかは分かりませんが、主体性はなくなるということですか。

(進行役)

懸念している部分は分かりますが、管理者は旭川市ですから主体性はあります。なので、市は空港について、もっと関わっていただかなければいけないと思います。

(A氏)

国際線について、今後どういう流れで対応していきますか。

(F氏)

今まで旭川空港単独で考えていたものを道内7空港全体で連携して考えるようになります。

(進行役)

新しいインセンティブが盛り込まれていますので、従来以上に国際線も可能性が広がっていくと考えて良いと思います。具体的には色々な支援策を実施して地方空港も頑張ってもらおうというシナリオになっており、旭川空港は比較的PRしていく位置づけになっていると思います。

(D氏)

農業の問題ですが、農家戸数の減少、担い手の不足、労働力が一番の問題です。5月の繁忙期には派遣会社から労働力の取り合いになっていますし、全道的にも10万戸以上あった農家数が2.8万戸程度に縮小しています。私は少数精鋭で経営力を強化して頑張っていますが、青果物販売額も減っています。また、稲作や麦など機械化できる作物がメインになっており、手間の掛かる野菜、花きなどは減少しています。そのような状況の中で、食品産業分野も含めて異業種交流をしながら現状の打開策を模索しています。

昔、野菜栽培の勉強に行った際には農業センターも活気がありましたが。今は、正直、期待をしていない。市民農園を始めとする農業と市民とのふれ合いが中心になっており、技術や省力の実証実験に力を入れて、センター機能を活かすような努力をして欲しい。

色々な課題もあるわけで、市民委員会、町内会が機能しないことが郊外の過疎地帯にあります。そんな部分を人材育成や異業種交流をして付加価値を付けるなど地域に向けた戦略を持って活動して欲しい。林業大学校とも連携して行って欲しいと思います。

(事務局)

農業センターはここ数年課題と考えております。

(進行役)

基本目標3ですが、数値目標やKPIは良い状態ですが、関連し合うはずの基本目標2の数字が改善していない。構造的に雇用創出では語れない問題があると思いますので整理をしていただきたいと思います。ここがうまくいけば基本目標2の数字は今よりも良い方向へ変化していくと思います。

抜けていたなと思ったのが、研修生制度が変わって外国人労働者を定着的な労働力として捉えるようになっていきます。今までと違い、定着してくれる外国人労働者をどう受入れていくかを視点に入れてください。

第1期総合戦略では、広域連携が旭川市の中心性を高める上でも重要であり、函館とか釧路という中心都市が過疎になっているのは、周辺地域の人口減により中心機能が弱っているからだと考えられます。医療サービスが典型的な例として挙げられるが、中心性を高める動きを全体的な政策としてやっていかなければいけない。観光の話も戦略の大きな柱にしていくなどしてください。

(進行役)

時間がタイトになってきていますが、残りのところについても事務局から説明をお願いします。

(事務局)

資料1【P35～41 まとめ】に基づいて説明

(進行役)

ありがとうございます。

(I氏)

今までの検討懇談会では空港を重視した意見を述べてきました。旭川市に人が来るようになり、観光客も増え、その結果、雇用が増えて住む人も増えるという風になっていたら、良いと思います。

市の中で数字を分析し、目標を定めて方向性を示しています。カーナビでいえば行く方向を決めている状態です。目的地を決めれば案内してくれますが方向性だけでは、大体こっちの方向という案内になってしまいます。ですが、その裏にあるソフトの部分、旭川市で言えば市民が幸せで豊かな生活を実現するという気持ちの部分、私の会社であれば、お客様と従業員の幸せになるという部分を定めることが重要です。その為にどんなことをやるか、こういう会議において、文章等で表すのは難しいと思いますが、アピ

ールの仕方として子育て、若い世代の結婚出産、何で結婚しない世代が増えているのか、何で晩婚化しているのか、本当の現在地の部分を考えて上で、未来予想図をイメージできる内容を文章で発信していくことが大事だと思います。

一つの例として、約35年ぶりに友人と会いましたが、旭川出身の人が50代になって旭川に帰ってきて今までの仕事を一から始めています。価値観ですが、旭川市に住む素晴らしさを伝えられる人がもっといるのでは無いかと思います。文章に加えて紙で表現できない旭川市に住む素晴らしさを何かの方法でPRして行ければと考えています。

(進行役)

P40～41で第1期総合戦略の評価をしっかりできれば第2期総合戦略のスタート地点に立てると思います。施策ベースでいうと手を広げていく今後の方向性ですが、成果が上がっていないときには施策の重点化が命題として出てこないとおかしい。できていない状態で施策の内容を拡げるとできないことを加速する可能性があるため、本当に必要なのか、地方創生で取り組むべきなのか、枝葉を切っていくくらいの考えで検討しなければいけない。もともと旭川市の総合戦略の内容は多すぎる傾向があるので、戦略的、重点的施策を絞っていくべきで、これ以上拡げると総合戦略としては逆の方向に行くと思います。総合計画ではないので人口減少に特化する政策に絞り込まなければ、総合戦略自体が薄まってしまいます。全体の第1期総合戦略の反省として考えていかなければいけない。第1期総合戦略の延長上で書いている節があるが、延長ではいけないくらい第1期総合戦略の成績は良くないと思います。シビアに考えていかなければ、第2期総合戦略に進めないような気がしますでしょうか。

(A氏)

私も同じ意見で、最後の文章、交付金を取りに行くぞ、取りに行つて第2期総合戦略をやるぞという書き方は間違っていないですが、市民感情が考慮されていないように感じ、市民の気持ちがないまま交付金を取りに行くことは間違っていると思います。

(進行役)

危機感をもって新しい取組を実施するためにお金を取りに行くことは悪いことでは無いと思います。申し訳ないですが、現状評価をもっと厳しく見ていかないと次に移れないのではないのでしょうか。KPIは概ね達成していると書いていますが、それだけで終われる状況ではないと思いますし、その状況を整理していただかなければ第2期総合戦略の検討を行っても本気で議論できないと思います。本日は色々な意見が出ていますので、その内容も反映してもう一度、第1期総合戦略の評価をして欲しい。努力してないとは思いますが、まったく進んでいないことを伝えて、市民の皆さんにも共感してもらう必要がある。市民も危機感を持って進んでいただきたいと思います。第1期総合戦

略の評価があつてからのことなので本日第2期総合戦略の基本方針を検討しても実りある話にはならないと思います。

(事務局)

再度、今後の方向性や第1期戦略のまとめなど再度検討させていただきお示しします。

(E氏)

皆様の予定等で集まることが難しいようであれば、資料を送付いただいて皆さんの意見を取りまとめる等していただければと思います。

(進行役)

タイミング的に第1期総合戦略の評価の修正と方向性をもう一度セットで連絡して意見を募れば良いかと思います。

(2) 第2期 旭川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本方針について

【第1期総合戦略の評価検証の再検討後に基本方針を検討する予定】

(3) その他 (今後のスケジュールの確認など)

(進行役)

その他ということで事務局から何かありますでしょうか。

(事務局)

今回は御多忙の中お集まりいただきありがとうございました。いただいた意見等を参考にしながら第1期総合戦略の評価検証の再検討を行いまして、皆様に提示させていただきます。その上で第2期総合戦略の基本方針の意見をいただきたいと思いますのでよろしく願いいたします。

3. 閉会